

天然自然の摂理～元の理～

2021.1.4 ver. -作成途中- ©小林真

人間が生きていく意味。それは人を助け楽しませ、遊び心の中に喜び勇む道、「陽気遊山」にある。自分の身体、又、この世の全ては、陽気遊山の為に借りている物で、心のみが自由に存在である。心が自ら陽気遊山に向かう時、現実はずいぶん変わる。この図表は、世の中の事象・現象を全て解き明かすものである。深く思案してみてください。

どんな道も、案じ心は持たぬよう。 ※「理」=事実、要因
 どんな時も、この身、全てを借りていることを忘れずに。
 どんな小さな事象にも、自分にとって何かの意味がある。

十柱の働きには、「陰の働き=神」主体(陽3:陰7)のものと「陽の働き=人間」主体(陽7:陰3)のものが存在する。

自分ではなく、周りを立てる心。普段は見えない陰で下から支え、大事な所で俊敏に足を運びつつ支える。局面を見極める洞察力と仲間(他の骨)との密接な連携が欠かせない。

足(の役割)。頭低く、影で下の方から支える柱の働き。
 ここぞという所で俊敏に硬化する働き。

物事が治まる理。
 外へ移動、凸型
 遠心力、膨張力、反発力

物事の道理に沿って、時句に引き出し、成長をもたらす状態。
 -引き出し3割の意識加減-
 不足:
 物事の表面部分が目について、隠れた長所や本質を引き出せない状態。また道理に反し、引き出し方に無理がある状態。

ぬくもりが陰の働きを引き出す、実りの働き。
 動植物の成長は、日光によって引き出される。

聞き上手が話し上手に。耳を傾け、勇み心を八方へ。

耳を傾け平衡に持っていく。心地よい流れを与える。
 不足: ①受け手にとって、風がしつこい状態。暴風状態。声や思いが通らない。受ける側は身動きが取れず、聞き分け、嗅ぎ分けできない。肥(声)をやり過ぎ、乾いて枯れた状態。
 ②受け手にとって、風通しが悪い状態。言葉足らずで心がじめじめと腐る状態。湿気、陰気臭い、しけた顔、ため息、虫がわく、カビ。また過度に閉め切る為に鳴る、金切声(耳障り)の状態。陰口、愚痴、毒を吐く、愛想尽かし、切り口上、捨て言葉、誹謗中傷、悪口を聞く

言葉を命
 運命を変える
 暖かく心地のいい風、言葉が生まれる。

をもたりに不足時:
 冷感性、悪寒、低血圧、貧血、極寒、低体温etc.

物の主軸、起点となり、先の楽しみを見定める。ほりや汚物を洗い流し澄ませる。冷静で、広大な海。目の前ではなく、遠くの景色(目的地)を見るから落ち着く。気長にやさしく。見えない陰で尽くす楽しみ。"目は心の窓" 眼は心根の現れ。

神の精神世界。
 見えない世界。無意識領域。
 光、希望を感じる。
 大きな志を持ち
 場所、目的を定める。
 本心。魂。
 "手引き"として身上、事情を現す。

①くにとこたち
 体内: 眼、心根、睡眠、感覚神経、副交感神経、涙、潤い、体の70%水分
 世界: 水、水素、雨、根、夜、N極、マイナス電子、地球の70%水分、宇宙の70%暗黒エネルギー

②をもたりに
 体内: 体温、活力、炎症、感情、交換神経、運動神経
 世界: 火、太陽、熱、光、電気、マントル、エネルギー、晴れ、プラス電子、S極、昼

③いざなぎ
 男、種(元)の働き
 まっすぐな堪能の心
 三日みにつく

④いざなみ
 女、苗代(環境)の働き
 素直に受け入れ育む心
 四日仕合わせ

⑤くにさづち
 体内: 皮膚、肉、筋繊維、血管系、リンパ管系、女一の道具
 世界: 柔軟な繋ぎの働き、花、縁、出会い、引き寄せ、求心力、万有引力、内を充実、凹型

⑥月よみ
 体内: 骨、首、足腰、男一の道具
 世界: つっぱり支える働き、立てる働き、柱、茎、岩石、地殻

⑦くもよみ
 体内: 嗅覚、味覚、咀嚼、飲み込み、消化、吸収、排泄、代謝、解毒、免疫、循環調節
 理解、記憶、(不要な情報を)忘れる、生活リズム
 世界: あらゆる循環(水など)、溶解(分解、酵素)→蒸発(吸収、分離)→気体→雲(凝固、老廃物)→降雨、降雪(排泄)

⑧かしこね
 体内: 息、呼吸、鼻で吸い(加温、加湿、清浄)口で吐く(冷暖房、加湿除湿)
 声、言葉、耳、聴覚、平衡感覚
 世界: 風、音、空気、振動、波動、潮の満ち引き

⑨をふとのべ
 体内: 出産時に子を引き出す働き
 身長、爪、毛髪の成長、思い出す、閃き
 世界: 引き出し一切、潜在的なものを引き出す働き、教育、動植物の成長

くにとこたち不足時:
 高血圧、不安症、ストレス過多、高熱、過緊張、不眠症、眼の身上 etc.

どこまでも、ひくい、やさしい、すなおな心、真実の心で。

お様の理。
 朝起き 陰徳の心。
 アルカリ性
 天の理と心の理を合わせよう。

『この道は言うて聞かず道やない。行つて見せる道や』
 自ら勇んで通り、その姿を周りや社会へ映していく時、世界が変わってくる。遅い往還道へと繋がっていく。また、見聞き、経験する事象、現象が、なぜ、どういう理で現れたのか、"自分は"という理を尽くすのか、自ら思案し悟ることが大事になってくる。同じ物事でも見方が変われば、景色が変わる。全て心通りに映っていく。

展開
 水のように冷静になって思い切り、物事が新たな楽しみへ転じ変わる。
 自分をまとう欲(泥)を捨て、いんねん、運命を切り替える。

『自分の心が澄んだら、誰の顔みてもよい顔に見えるようになるで』
 死ぬというのは、着れなくなった衣服を脱ぎ捨てるのと同じこと。

仕切る働き。陰を閉じて冷静に思い切り、切を付けて進み出す心
 陰での働き

時を見定め、動きを止めて静かに思い切る。終わり&始まり

不足: ①物事が処理しきれず、その状況を断ち切る状態。陰が勝手に下がってくる状態。
 ②物事への執着が強くなり、先案じや保身の考えが先行して、先入進めない状態。不安や心配などで、陰を閉じ切れないう状態。割り切れず思い切れず、踏み切れない、はじめがない。切れ味が悪い、保守的

循環 陽での働き
 必要不要を嗅ぎ分け、味わい咀嚼して迎入れ、残留物は流す循環・順応の心

物事の道理に沿って、柔軟に循環する状態。
 腹七分目

不足: ①物事を強引に受け入れ、闇雲に流れてしまう状態。暴飲暴食・下痢状態。咀嚼しきれず、味わえず、消化・吸収できず。大雨洪水状態。物忘れの傾向。
 ②物事を柔軟に受け入れず、流れに反して物事に執着し手放さない状態。偏食、拒食or便秘状態。干ばつ状態。過去や現状に執着し、老廃物を流せない状態。嫌な事が頭に浮かび、忘れられない傾向

物事を柔軟に受け入れ、子ども心でゆっくり次へ繋げる心
 陽での働き

必要な清々しい空気、新鮮な景色を迎えられない、無理な辛抱や我慢

温かい心が消化・吸収・排泄を促し、物事の循環を生み出す。

人を助ける処に、自分が助かる。相手とともに、皆で助かっていく道。

見聞き、経験する出来事を喜び工夫をし、繋げる心。不平不満は繋がらない。見聞き、経験する中に自らのいんねん、歩むべき道が見える為、喜べる。喜べるから、新しい繋がりが生まれる。

人の埃が見える間は、自分にもそれだけの埃がある...

心のほり(※毎日払い、人にほりを積みまぬよう)
 おいしい、ほしい、かわいい、よく、ごうまんにくい、うらみ、はらだち、嘘、追従(我が身心を捨てる)

【二つ一つの理とその均衡】
 対になる働きは助け合い、シーソーのように連動して作用する。
 ①くにとこたち: ②をもたりに
 ③いざなぎ: ④いざなみに
 ⑤くにさづち: ⑥月よみに
 ⑦くもよみ: ⑧をふとのべ
 ⑧かしこね: ⑨たいしよく天